

## 四谷の

# 千枚田だより



第 264 号

## 四谷の千枚田から 全国棚田(千枚田)サミット開催 二十周年を振り返る

「緑と水と心のオアシス」をテーマに第十一回全国棚田(千枚田)サミットが平成十七年九月二日・三日鳳来町で開催され、二日間で延べ千七百十三人の棚田関係者が参加。地元スタッフを含むと述べ千五百人が取り組むという盛大な催しであった。地元では校区の若い衆がサミットを成功させようと「サミットお助け隊」を結成、千枚田を覆う杉林を伐採。また、訪れる棚田関係者の送迎バスの天井が擦れるからと道路



築、その余韻を「連谷お助け隊」と改称、地域貢献に尽くしてきた。当日の朝、校区住民約百五十人は連谷小グラウンドに集まり「サミット成功・接待等に気合を込めた。午前中は全国棚田連絡協議会総会、首長会議、木村尚三郎会長が「棚田はいのちの愛・地球博によせて」と題して基調講演。午後の千枚田見学会では校区住民が主役で厳しい棚田を築いた九六歳衆の再現、時でもない田植え風景、参加者を交えた稲刈り、昔の脱穀の実演や児童たちの稲作体験発表、要所要所での湯茶

の提供など校区住民が丸になり、参加者に至れり尽くせりの接待を行った。全体交流会は「学童農園やまびこの丘」を会場にアトラクションとして身平橋の若い衆による無形民俗文化財「はねこみ」に参加者も飛び込み参加したり、「よさこい愛好会」の演舞などで会場を沸かせた。接待には鳳来町商工会の惜しみない料理(地域特産品など)が振る舞われ、場を盛り上げた。参加者のアンケートでは▽バス移動の時、地域の方々は手を振って私たちを歓迎してくれた。こんな温かい人たちがだから、千枚田が守られているんだ。▽棚田の方々の献身的なおもてなしに感激した。▽見学会から棚田を中心にコミュニティが生まれてるんだ。▽空気が綺麗なから、地元の人の心も綺麗な

だ。等々お褒めいただいた。ここに、サミット開催二十年を振り返って見た。地域の皆さん、あの時は大変ご苦勞様でしたし、今、振り返ってみると、昭和三十一年、海老町がすったもんだの末(海老の南北戦争)鳳来町に、そして平成十七年十月一日に新城市となつてしまった。その最後を締めくくる一大イベント「全国棚田(千枚田)サミット」をこの地で開催。成功に導いた地域の絆(連谷魂)は語り草として憚りないと思うし、この地域ぐるみの取り組みが今現在においても各地のサミット開催の原点になつていることが、何より嬉しいし、誇りでもある。そんな「底力(灰汁も強いが纏まりも強い)」のある連谷地域(学校廃校までは校区)の皆さんを称え、サミット開催二十年を振り返ってみました。：ありがとうございます

## 無茶苦茶悲しい



『米は八十八と書く。その語源は米が実るまでに必要な作業の数を具体的に表しているのではなく、農家が一年を通じて米を育てるために数多くの手間(行程)を掛ける事、その苦労と努力の総体を象徴している』とされているが、平坦地の稲作はバルブの開閉で水管理できるが千枚田は急傾斜地で水持ちも悪く、田植えから収穫まで百二十日余り、一日として見廻りを疎かにできなく、平坦地と比較にならないくらい大変である。そんなこんなでヤツトコさ米になる。ただでさえ大変なところへニホンジカやサル、イノシシが侵入、被害続出、棚田の百姓は途方に暮れている。あまりにも有名になってしまい「にっちもさっちも行かなくなっている」のが現状だ。訪れる人々は「素晴らしい、日本の



イノシシの被害 一夜にして五枚の被害

原風景だ：守ってほしい」等々、軽口を叩くが、では、現状を話し、あなたが田んぼを作ってくれるかんと畳み込むと急に無口になってしまう、守るのは大変だ

## 害獣被害防止のご協力

門扉の開閉について

○ 扉が閉まっていたら開けて入り、必ず 閉めてください。



四谷の千枚田の保存継承にご協力ください 百姓一同

侵入防止柵の設置や自作地に電気柵や海苔網を張り回したりして対策を講じているが害獣は年々知恵も進化しており、まるで「イタチごっこ」の様である。(最近の目視ではニホンジカ約三十頭、サル約五十四匹、イノシシは一旦は豚熱で減少したものの増えつつある。まるで野生の王国だ：)



## 収穫の秋

九月初日からぼちぼち稲刈りが始まった。未だに暑い日が続いており、各地で水不足とか高温障害などのニュースはあるものの、四谷の千枚田は恵まれた湧き水のため、まずまずの豊作で、畝取り以上の自慢話もチラホラ聞こえてくる。

害獣被害に泣く百姓もあれば、豊作にほくそ笑む百姓もある。お互いに労苦が健康を戴くと思えばそれよし：か。



平均面積が一坪にも満たない棚田にコンバインが四台も稼働している。その、軽業的操作技術について見とれ、刈り取りの手が緩んでしまうのも：一興か。

## 環境保全活動

九月十一日、横浜ゴム新城工場主催で四谷の千枚田に於いて産官民連携、環境保全活動Ⅱ総合対策外来植物の抜根・駆除作業を実施した。内容：四谷の千枚田区域内の特定外来植物(アメリカセンダンソウ、セイタカアワダチソウ)の抜根・駆除作業。目的及び目標：自生する特定外来植物を減らし、四谷の千枚田の景観を守る保全活動に貢献する。この、活動には東海農政局愛知県点参事官、新城市役所職員、奥三河ビジョンフォーラム、オートバックス社員、愛知県新城設楽農水事務所、保存会、横浜ゴム生物多様性チームなど多くが参加した。



行 令和七年九月十五日  
鞍掛山麓千枚田保存会  
発 文 責 小山舜二